

## 台湾原住民の消滅危機言語の記述

文学研究科 修士課程 2年  
大谷 青渚  
台湾

2017年8月14日～2017年8月28日

### 計画の概要

台湾南部の屏東県、台東県に居住するパイワン族の言語の置かれている状況を正しく理解し、記述することを目的とする。

パイワン族は約10万人の人口を持つにもかかわらず、大半の人々は日常会話に中国語を用いており、パイワン語を理解し、運用する人数が減ってきているのが現状である。実際、50代以下の人々は進学・就職などを理由にパイワン族の暮らす村から離れてしまい、日常的にパイワン語を話す機会を失っている。そのため、そう遠くないうちに消滅が危ぶまれている言語である。

今回は屏東県のパイワン族の村に行き、そこで暮らしている人々、つまり現在でも日常的にパイワン語を使用している人々から、パイワン語の資料を得た。

### 成果

8月14日から8月28日に、台湾へパイワン語の調査に行った。

まず分かったことは、原住民の祭りや教会などの宗教的な場では、中国語よりもパイワン語を主な言語として使っていたことだ。「収穫祭」というパイワン族の大きな祭りでは、宣誓のことばや大会プログラムの読み上げなど、すべてにパイワン語が使われていた。収穫祭には、進学・就職などで村の外に出た若いパイワン族の人々も含め、ほぼ全パイワン族が参加するので、パイワン語を理解しない人々にもわかるようにパイワン語の放送の後には中国語翻訳したものが放送されていた。また、教会でも収穫祭と同様、まずパイワン語で話がされて、後に中国語が続いていた。聖書はパイワン語で書かれたものを用いていた。

次に、方言差についても調査ができた。パイワン語は北パイワン語、中パイワン語、南パイワン語、東パイワン語という方言の種類があり、このうち北・中・南に関しては実際にその村に行って聞き取り調査を行うことができた。方言による差は、[q], [dj / d], [tj / t] という音声において顕著であった。例えば [q] という音声に関して、北・中パイワン語で

は無声で発音されるのに対し、南では有声で発音されていた。また [dj / d], [tj / t] に関しては、北パイワン語では [d], [t] で発音されるのに対して、中・南では [dj], [tj] で発音されていた。

文字に関して、パイワン語には独自の文字がないので表記にはローマ字を用いている。しかし、正書法は一応定められているにもかかわらず、その普及率は低いように思われた。例えば、60代後半以上のパイワン族の人々は、流暢にパイワン語を話せるが、文字の読み書きができない。そのため、彼ら自身が彼らの知識を文字記録として残すことはほぼ不可能なように感じた。しかし、いくつかの大学では「原住民サークル」というものがあり、大学生たちが原住民の文化復興に努めていたり、原住民族委員会という委員会では原住民教育推進のために各民族の言語の教科書を作成していたりと、言語や文化の保存に前向きに取り組んでいることも分かった。

以上のように、パイワン語の置かれている状況としては、委員会やサークルなど言語や文化の保全・復興に力をいれているという一面も見受けられたが、実状は若い人々は村を出て進学・就職してしまうので、若い世代にもパイワン語が受け継がれているという印象はもてず、やはり消滅の危機があるように感じた。また、パイワン語の言語的特徴としては、4種類の方言があり、それぞれの方言の差異は音声面で顕著であった。

